

第1学年1組 保健体育科 学習指導案

実施期間 令和〇年〇月
指導者 〇〇 〇〇

1 単元の構想

「球技」（ゴール型）サッカー

単元終了後の子どもの姿	サッカーをとおして、「球技」（ゴール型）の特性や行い方、高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能やチームの作戦に応じた技能を生かして仲間と連携してゲームを行うことで、その楽しさや喜びを味わっている。また、日常生活においても運動に親しみ、球技をはじめスポーツに多様な関わり方をしようとしている。		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
単元の目標	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。	攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。	球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。
目標に向かうための手立て	<p>○「3つのポイント」×「子どもが主体のICT」</p> <p>【めあて】 動画や学習シート等で前時までの学びを振り返り、課題や実践したいことを生徒から引き出して全体で共有することで、本時の活動のめあてを主体的に捉えられるようにする。</p> <p>【振り返り】 項目が精選された振り返りシートを活用したり、動画等を撮りためて比較したりすることで、課題や自己の変容を振り返り、球技（ゴール型）の「わかった、できた」を実感し、次の学習等に生かすことができるようにする。</p> <p>【対話】 友達の運動について、どのようなところに着目して見るのか視点を共有したり、対話のモデリングをしたりすることで、互いに撮影したサッカーの動画をもとに対話の活性化を図り、学びの深まりにつなげていく。</p>		
子どもの実態 30人	<p>①これまでの学習経験から、球技の特性についてある程度理解している。</p> <p>②球技の各種目に必要な技術の名称や身に付けるポイントについて、ほとんどの生徒が理解できている。</p> <p>③ゴール方向に守備者がいない位置でシュートができる生徒は半数である。</p> <p>④得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる生徒は4割である。</p> <p>⑤ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる生徒は8割である。</p>	<p>①自分や仲間の課題や出来栄を伝えることが苦手な生徒が3人いる。</p> <p>②ほとんどの生徒が自分の役割に応じた活動をすることができる。</p> <p>③自分やチームの課題解決に向けて、仲間と話し合いながらチームにかかわることができる生徒が多い。</p>	<p>①練習の補助をしたり、仲間の学習を援助したりしようとする生徒が多い。</p> <p>②ほとんどの生徒が自分や仲間の健康や安全に気を付けることができる。</p>

単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、話したり書き出したりしている。【知識】</p> <p>②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。【知識】</p> <p>③ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。【技能】</p> <p>④得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。【技能】</p> <p>⑤ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。【技能】</p>	<p>①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来栄を伝えている。</p> <p>②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。</p> <p>③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。</p>	<p>①練習の補助をしたり仲間を助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。</p> <p>②健康・安全に留意している。</p>

指導と評価の計画（10時間取り扱い ●本時3/10）												
課題等	時間	1	2	3●	4	5	6	7	8	9	10	
ボール操作とゴール前での連携した動きを仲間と高めながらサッカーを楽しむ	0	健康観察・本時のめあての確認・準備運動										
	10	テ ー リ シ ョ ン	ボール操作 ・シュート ・パス ・トラップ		ボール操作の反復練習					の 修 正 ゲ ー ム Ⅰ	グ 戦 Ⅱ	最 終 リ ー
	20				空間に走り込むなどの動き	課題の確認と解決の練習 ・ボール操作 ・空間に走り込む						
	30	ゲ ー ム 慣 れ	シュートゲーム ・ゲーム記録の活用		グリッド突破ゲーム ・仲間への即時の助言		簡易ゲームⅠ ・人数、コート、ルール等の簡易化			グ 戦 Ⅰ	最 終 リ ー	ま と め の 単 元 の
	40											
	50	整理運動・学習の振り返り・次時の確認										
知 思 主		①		③		②④	⑤					
			②		①			①		③	総括的な評価	

2 本時の授業計画

(1) 本時の目標

ゴール方向に守備者がいない位置に移動してシュートをすることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	○主な発問・指示 ・予想される子どもの反応	○教師の支援 ◎評価	備考 ・ICT 機器等
導入	12	1 場の準備、準備運動、ボールを使った補助運動をする。 2 本時のめあてを設定する。	○今日のめあてを確認します。	○健康状態や安全面での確認を行う。 ○生徒の振り返りからめあてにつなげる。	ホワイトボード
	ゴール方向に守備者がいない状況でシュートをするための動きを身に付けよう				
展開	8	3 課題の解決に向けて活動する。	○ゴール方向に守備者がいない状態でシュートするためには、どんな動きが必要だろう。	○生徒から課題を引き出すために、前時の様子や見本動画をタブレットで見せる。	タブレット
	10	(1)課題の確認と解決の練習 ①2 対 1 ②3 対 2	・守備者と離れたシュートしやすい位置に走りこむといいと思う。 ・体の向きや走り出すタイミング大事だね。 ・守備者の裏へ出たらいいね。	○互いの動画を撮影することで、対話による課題解決を効果的に行うようにする。 ○動きのモデリングで視覚的に認識できるようにすることで、苦手な生徒の理解を促す。	タブレット
	15	(2)グリッド突破ゲーム	○みんなで確認したポイントを活かして、ゲームをしよう。 ・お互いに気付いたことをアドバイスし合おう。	◎【知】③ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 〈観察・学習カード〉	
終末	5	4 学習を振り返る。場の片付けをする。	・次の時間は、今日よりもいい位置に動いてシュートを決めたい。	○達成感と次時への意欲を保つために、生徒の奨励点を紹介する。	学習シート

体育

小学校・体育（運動領域）

第2学年1組 体育科 学習指導案

実施期間 令和6年10月
指導者 ○○ ○○

1 単元の構想

マットを使った運動遊び

マットを使ったいろいろな転がり方や動き、より運動を好きになっていく。学びの運動遊びに生かしたり、進んで運動遊び

ポイント

単元の目標

・学習指導要領の文言を使用して、文末を「～できるようにする。」として作成する。

単元の目標	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びの楽しさ、人間性等
マットを使った運動遊びの行い方を知るとともに、いろいろな方向に転がったり、手で支えての体の保持や回転をしたりして遊ぶことができるようになる。	マットを使った運動遊びの行い方を知るとともに、いろいろな方向に転がったり、手で支えての体の保持や回転をしたりして遊ぶことができるようになる。	マットを使った簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。	マットを使った運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とも仲よく運動したり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。

○「3つのポイント」×「子どもが主体のICT」
【めあて】
前時までの自分たちの運動遊びの動画をみて、友達のようにできるようになる。

ポイント

単元の評価規準

【知識・技能】

- ・「知識」と「技能」の内容は、別の項目で作成する。（中学校の場合【知識】と【技能】を文末に明記）
- ・「知識」の文末は、「～している」として作成する。
- ・技能の文末は、「～できる」として作成する。

【思考・判断・表現】

- ・文末を「～している」として作成する。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・「安全」に関する内容は、文末を「～している」として作成する。
- ・安全以外に関する内容は、文末を「～しようとしている」として作成する。
- ※項目や内容が多い場合は、文字を小さくするなどして調整をする。

単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①マットを使った運動遊びの行い方について話したり、実際に動いてみたりしている。 ②マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がって遊ぶことができる。 ③手や背中支えて逆立ちをしたり、移動したり、体を反らせてブリッジをしたりして遊ぶことができる。	①坂道やジグザグなどの複数のコースでいろいろな方向に転がることができるような場を選んでいる。 ②腕で支えながら移動したり、逆さまになったりする動きを選んでいる。 ③友達のよい動きを見つけたり、自分で考えたりしたことを友達に伝えたり書き出ししたりしている。	①動物の真似をして腕で支えながら移動したり、転がったりするなどの運動遊びに進んで取り組みようとしている。 ②順番やきまりを守り、誰とも仲よく運動遊びをしようとしている。 ③用具の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。 ④場の安全に気を付けている。

指導と評価の計画（6時間取り扱い ●本時2/6）							
課題等	時間	1	2●	3	4	5	6
オリエンテーション ・学習内容の確認 ・安全の約束の確認 ・場の準備や片付けの仕方の確認 ・感覚づくりの運動遊び	0	場の準備→準備運動（感覚づくりの運動遊び）					
	45	ころころランド ・前転がり ・後ろ転がり ・だるま転がり ・丸転がり	びよんびよんランド ・腕支持での川跳び ・腕支持での平均台跳び	さかさまランド ・跳び箱や肋木を使った運動遊び	マットランドで楽しもう グループでマットランドの場を作ったり、紹介し合ったりして楽しむ	自分のグループで場を作ったり、他のグループと紹介し合ったりして楽しむ	
		振り返り→遊びのバリエーションの紹介					
		振り返り→整理運動→片付け					
知			②	③	①		
思				③		①	
主	④		③		①	②	②

ポイント

指導と評価の計画

・縦軸に一時間の活動の流れ、横軸に単元の時間の流れとして、単元計画を作成する。
・毎時間、帯で取り囲むものは四角で囲む。

2 本時の授業計画

(1) 本時の目標

ころころランドでいろいろな転がり方をして楽しむことができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	◎主な発問・指示 ・予想される子どもの反応	◎教師の支援 ◎評価	備考 ・ICT機器
導入	10	1 場の準備、準備運動、感覚づくりの運動遊びをする。 2 本時のめあてを決める。	・音楽が流れていると、体を動かしたくなるな。 ○今日はどんな楽しみ方をしたいですか。	◎【主】③用具の準備を友達と一緒にしようとしている。 <観察>	
			ころころランドでいろいろな転がり方をして楽しもう		
		3 どのような転がり方をして遊ぶことができるのかを考えな	○ころころランドでは、どんな転がり方をして遊ぶことができるかな。	◎子どもからの問いを引き出すために、前時の様子を動画で見せる。 ○振り返りにつなげるために、動画撮影の視点を示す。 ○対話を活性化するために上手な対話をモデリングする。 ◎【知】②マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がって遊ぶことができる。 <観察、ICT>	
展開					
終末				○「キラリさん」を紹介することで相互に認め合い、達成感を味わうことができるようにする。	タブレット

ポイント

教師の支援

・何のために、どんな支援をするのかを具体的に書く。

評価

・「指導と評価の計画」と合致するように、評価項目を入れる。
・評価方法をくく書きする。

ポイント

評価する内容

・1枚目の評価規準にある評価項目の番号を、1時間に1つか2つ入れる。
・単元の評価規準の全ての項目を計画的に評価する。